

児童自立生活援助事業 なごみハウス圓

平成 28 年度事業計画

重点課題

昨年度の重点課題を踏襲すると共に、入所者の成育歴を踏まえ習癖・IQ検査・適性検査・職業適性検査等の各種検査を通して全体像の把握に努め、ホーム内での生活や就労の指針に努めて自立への支援につなげてまいります。

また昨年に増して職員間及び関係諸機関との「報告・連絡・相談」を更に密にすることで、職員の対応能力を高めて参ります。

「自立援助ホーム」の存在と活動を認知して頂くべく報道関係等の協力を得てのPRに努めるとともに、市町村の福祉課への積極的な広報活動を展開してまいります。

なごみハウス圓(通称「圓」)に入所している者にとって、相談の出来る職員がいる・食と住居が保障されている、退所しても何時でも訪れることの出来る「家庭」であることを指向して参ります。

個性や主体性が尊重される生活

ホーム生一人一人の思いやわがままでない要望、こだわり等が出来るだけ尊重される環境が保障できるように配慮していきます。

規則は少なく、職員からの指示的・押しつけ的な決めごとは避けるようにホーム生と職員が対等な立場で一人の生活者として「どうしたらみんなが暮らしやすい環境になるか」を基本にした話合いと対話を大事にしていきます。

語れる環境(子どもが意見や思いを述べやすい環境)

日頃からホーム生とコミュニケーションをとり、良好な人間関係づくりを努めます。

その為に、職員が常に聴く姿勢を持ち職員はホーム生のことを考え、抱えている悩みなどを誠実に聴くことを心がけ、いつでも求めに応じる姿勢を用意していることを伝えていきます。

自己肯定につながる環境づくり

すごい頑張りや、努力をしなくても普通に出来ていることを受容肯定していきます。

誕生日・退所時などささやかでも心のこもったお祝いの会やメッセージカードのプレゼントなど記憶に残る嬉しい楽しい時間を持てるようにします。

葛藤を修復できるスキルカにつながる生活

受容すべきことと、譲ってはならない、ブレないで、厳しく伝えなければならない時を見極めてダメなことはダメ、人権を侵害することや、法に触れる行為など失敗と思

われる行為の時は、受容的支持的な関わりだけでなく、対話を中心とした子どもとの真剣なぶつかり合いを持ちながら失敗をどのように解決、修復していったらよいかを考えさせたり一緒に考えたりしていきます。その中で信頼関係を築いていきます。

丁寧で良質な生活環境

情緒・情操の豊かさにつながる環境を大切に考えていきます。

・食環境

温かいものを温かいうちに食べられるように配慮していきます。また食卓は囲むものであり、語らいを大切な場として考えていきます。

全員同じ食器ではなくマイ茶碗・マイ箸、マイカップなどを用意していきます。

色合い・盛り付け・デザートまで美味しく感じる創意工夫・心配りを大切にしていきます。

ホーム生の食事作りへの参加は、意欲の芽を育み自信につながることで積極的に声をかけていきます。

・住環境

ホーム生の部屋は、清潔感のあるくつろげて暮らしやすい環境になるように工夫していきます。

共同で使用するトイレ・浴室・台所・リビングは、何となく落ち着き癒される空間になるようにしていきます。

行事の写真を飾ったり、花や植物を飾ったり、窓を綺麗に磨くなど情緒・情操につながる創意工夫もしてきます。またトイレ・台所・洗面所に使用するタオルはいつも清潔に保ちます。

・衣環境

自分でおしゃれができるようになることが大切であり、年齢相応のおしゃれ感もてるようにまた季節感に配慮でき、身だしなみを意識した装いが身に付くように職種や職場環境を意識できるように支援していきます。

就労支援

ホーム生が主体的に仕事を探すように促しますが、仕事探しの経験が乏しい者については、ハローワークやインターネット上の求人サイトの利用など仕事を探す方法について職員がアドバイスをしていきます。場合によっては、ハローワークへの同行や履歴書作成の指導や面接にふさわしい服装の準備などの援助をしていきます。

ホーム生の能力や特性によっては、就職先の雇用主に一定の配慮をお願いしていきます。

そして定期的に就労先を訪問し利用者の様子等を把握すると共に、様々な情報を得られるよう有効的な関係を築きホームと雇用主が連携してホーム生の勤務状況を見守って

いきます。

離職に至った場合は、何故仕事が続かなかったのかを職員と共に振り返り、次の就労に生かせるようにしていきます。

社会人のスキルとして、挨拶の大切さ・時間厳守・報告・連絡・相談の徹底・服装の身だしなみ・謝ることの大切さなどの心構えを、ホームでの生活の中で繰り返し指導すると共に職員自身の実践によって、その大切さをホーム生に伝えていきます。

ホームは、職場体験場所を確保するように努めます。

職員のチームワーク

入居者は、職員をよく観察しており考え方の違いから職員同士の関係が悪くなったりすると、安心できる環境が崩れることとなります。職員への信頼感が薄れる状況を作らず仲が良い状況よりも、職員同士の対話や意思疎通を図る努力やチームワークの大切し子どもにとって良いモデルになるようにしていきます。